

第 4 回 沖 縄 県 教 育 委 員 会 会 議 (定 例 会)

1 日時 平成23年02月16日 15時11分～16時38分

2 場所 教育庁第一会議室

3 出席者

委員	中野 委員 (委員長) 安次嶺 委員 比嘉 委員 鎌田 委員 新垣 委員 金武 委員 (教育長)	(欠席委員)
----	---	--------

教育 庁	統括監等	教育指導統括監、参事
	課長及び 班長等	総務課長、財務課長、施設課長、福利課長、 県立学校教育課長、義務教育課長、保健体育課長、 生涯学習振興課長、文化課長、全国高校総体推進課長
	職務のため 出席した者	(事務局) 総務課総務班班長、同班主査、 県立学校教育課人事班主幹、義務教育課人事班主任、 生涯学習振興課管理班班長

4 傍聴した者

記者 2 人 / その他 0 人

平成23年第4回県教育委員会会議（定例会）

（開会15:11）

委員長	ただ今から平成23年第4回県教育委員会会議・定例会を開催します。 はじめに会期の決定を行います。本日1日を予定しておりますが、よろしいでしょうか。
各委員	はい。
委員長	このとおり決定します。 今回の会議録署名人は、安次嶺委員にお願いします。
安次嶺委員	はい。
委員長	次に教育長報告をお願いします。
教育長	本日は教育長報告はございません。
委員長	それでは、議事に入ります。本日は議案が3件となっております。 それでは、議案第1号の説明をお願いします。
総務課長	（議案第1号の説明） ・沖縄県立博物館・美術館の管理に関する事務の委任に関する協議について
委員長	御質疑等ございませんか。
安次嶺委員	美術館に寄贈や寄託をしたいという申出はどのくらいあるのか。それによって、何を受けるのかという協議も必要になると思う。
文化課長	たとえば、昨年の美術館で高江洲敏子展という企画展を開催しましたが、その際にも寄贈を受けました。高江洲氏は、アメリカの現代アートの世界では著名な作家で、数億円単位の評価額がついています。
安次嶺委員	展示した作品は、全部寄贈を受けるのか。
文化課長	全部ではありませんが、展示したうちの何点かについて寄贈を受けています。正確な数は今手許にありませんが、それ以外にも何点かあります。
安次嶺委員	寄贈、寄託を受けるかどうかは、どこでどのようにして決めるのか。
文化課長	協議会がありまして、そこで学芸員も交えてそこで検討しております。
委員長	他にございませんか。 （しばし間があり） では、このとおり決定してよろしいでしょうか。
各委員	異議なし。
委員長	このとおり決定します。 次に、議案第2号の説明お願いいたします。
財務課長	（議案第2号の説明） ・教育委員会の権限事務に係る教育長の臨時代理の承認について（議案「平成23年度沖縄県一般会計予算」及び議案「平成22年度沖縄県一般会計補正予算（第5号）」に対する意見）

委員長	御質疑等ございませんか。
安次嶺委員	人件費が0.3%の減、扶助費が9.5%の減に対して、奨学金関係が26%も減となっている。金額にして2,500万円、全体から見れば小さいかもしれないが、これによって現場ではどのような影響が出るか。
財務課長	この奨学金関係事業費は、国際交流人材育成財団が大学生等への貸付に充てる奨学金の原資を県が貸し付けているものですが、10年単位で貸し付けており、10年前に貸し付けたものが今年度返済されるので、これを特定財源に充てて、また今年の貸付財源に回すという形で予算措置をしています。これが今マイナスになっております。
県立課長	また、3年間限度の期限付ですが、国が緊急対策として3億円の基金を作っており、その基金を財団が活用することによって、増となります。
安次嶺委員	奨学金が減らされたというわけではなく、実際に奨学金を受ける人達には影響はないということか。
県立課長	はい、300人ほど増えており、実質的には拡大しております。
比嘉委員	23年度の継続事業、新規事業を見て、スクールカウンセラー・ソーシャルワーカー等配置事業で、配置が増えるのは良かったと思う。
財務課長	小学校では5校増えます。中学校では90校の配置は変わりませんが、活動時間を週2時間増やします。
比嘉委員	学校・家庭・地域の連携協力推進事業に関しては、国庫の100%委託がなくなって、3分の1県、3分の1市町村になったということだが、以前の話では、拠点作りに関して、市町村、学校、地域からの要望に関しては、応えられているということだったか。
学振課長	手を上げた市町村からの要望については、全て受けております。
比嘉委員	<p>離島の読書活動の推進について。昨年、本の貸出数が一気に伸びた。新しい本も買い、場所を増やしたことで、目に見えて読書活動が活発になったという成果が出ていたので、53万円減といえども、去年と近い形で予算が付いているのも良かったと思う。今後も充実をお願いしたい。</p> <p>“知の拠点”整備更新事業が、図書館の整備に係る事業と、図書の購入が全額繰り越されている。この事業に関して、今まで図書館に行き行って感じたことをお願いしたい。整備の時に、設計、工事の段階で、ユニバーサルデザインに配慮してほしい。聴覚・視覚障害者、高齢者に優しい建物をどう作るか、ハード面から、スロープ、サイン、あるいは備品をどう作っていくか、最初から意図を持って取り組めば上手くできると思うので、ぜひお願いしたい。また、県立図書館は全県的なものなので、貸出も含めて、いろんな人が利用するが、今は点字図書や聴覚障害者のための音で聞ける資料がないということなので、図書購入の時に、この充実もぜひ図ってほしい。高齢者のた</p>

	<p>めの資料も、大型の虫眼鏡のような装置で見れるような形で貸出しているということだったが、それももう少し充実するよう配慮してほしい。</p>
鎌田委員	<p>図書館司書若年者人材育成事業の事業概要に、読書活動を推進する人材を育成するとある。これはとても大事なことだ。人を派遣するだけではなく、そこにある本の活かし方の力を持ったレベルの人が窓口にいないと、図書館というのは、どんなに本を揃えても寝てしまうという実態がある。資料には、図書館業務に精通し、地域の読書活動の核となる人材を育成するための経費とある。具体的には、そういう人材を、23年度1年かけて、育成し、雇用していくということか。まったくの素人が、図書館業務に精通し、地域の読書活動の核になるような事業メニューを消化させることで、この予算は使われるようになってきているのか。何人育成するのか。</p>
学振課長	<p>現在、県下41市町村のうち19市町村が図書館未設置ということで、特に図書館未設置の市町村において、司書資格者を育成し、いろいろ図書館のカウンター業務、資料整理、あるいは移動図書館等の図書館業務に精通した人を、1年間で、司書資格取得にむけて人材育成しようということです。中央図書館に、1年間配置し、時期に応じて、委託会社の方で専門的なノウハウを伝達するという仕組みになっております。5人育成します。</p>
鎌田委員	<p>雇用という視点からはこれもいいと思うが、一方で、司書の定年退職が年々増えてくる。必ずしも新人教育ではなく、即戦力で、即地域に還元し、直接、早く、市民に効果が出せるという観点で、そういう力を持った人達が、個人的に地域で活用されたりはしているが、この中に、既に力を持っているベテランの再雇用を加えることも可能か。</p>
学振課長	<p>この事業は、基本的に、若手を教育して資格取得させて、長いスパンで地域の図書館の業務を扱っていくというのが趣旨ですが、今の提言について、可能性はあるかどうか検討させていただきたいと思います。</p>
鎌田委員	<p>読書のハード面はかなり整備されつつあるが、ソフト面では、年々、定年退職で辞める司書を臨時で補っているというところがある。そこにある本を熟知して、児童生徒、県民市民にその本が生きていくような受け渡しができる力のある人をどう配置するかは、とても大事なことだと思うので、そういう視点からもぜひ、この図書充実のプランを立ててほしい。</p>
比嘉委員	<p>これから自由度が高い予算をどんどん要請できると期待して、たとえば、読み聞かせをしているグループや、図書活動に興味があつていろいろ活動している方々に資格を取ってもらうサポートの事業を入れてはどうか。また、鎌田委員が提言したOB活用の観点で、雇用まではできなくとも、地域でNPO的な組織を作って、そこで人材をプールしてもらい、学校や市町村は年間の委託費を出してそのNPOから派遣してもらって、各学校の読書活動を</p>

	<p>充実させるように取り組むようなことはできないか。もし可能性があれば、サポートやNPOの育成あるいは支援をして事業を芽出ししてはどうか。このような形を実験的に実施し、今度は市町村に移譲していくというような流れも検討してはどうか。予算はどんどん削減されていくので、雇用は厳しいの一言で止まってしまう。それではなかなか活動が進まないで、今できる形の中で、よりよい方法を探っていくことがいいと思う。</p>
学振課長	<p>今回の補正予算で、地域活性化交付金が約1,000億付きました。目的は、緊急雇用的な要素もありますが、片山総務大臣の談話では、一過性ではなく今後も継続したいということですので、今の御提案について、この交付金制度とどう結びつけることができるか検討させていただきたいと思います。</p>
委員長	<p>比嘉委員、鎌田委員から貴重な意見があったので、担当課の課長は、熟知して、この予算を活かすよう、努力してほしい。</p>
新垣委員	<p>県立学校図書購入事業について。生徒からも図書購入費をとっていると思う。この予算は各学校にどういうふうに分配するのか。実業高校の場合、非常に専門的な資料もあるが、学校に任せているのか、子どもの要望に沿ってやっているのか。</p> <p>また、校舎改築の繰越金等もあるが、改築時のプレハブやクーラー設置もよく話題になる。先日、高P連の研究討議のときに、進学校のプレハブでのクーラーの時間の問題や寮の件が出ていた。寮にクーラーがないということ等は受益者でいいのではないかとも思うが、寮には老朽化の問題もある。寮の老朽化についても聞きたい。</p>
財務課長	<p>図書、県立学校の図書購入については、予算の積算上、消耗図書を県立学校に各300冊、県立中学に400冊、特別支援学校に各150冊、1万円以上の備品図書は県立学校に各10セット、特別支援学校、中学校に各5セットとなっております。具体的な分配方法は、これからの検討になると思います。</p>
県立課長	<p>図書の購入については、各学校に設置されている図書委員会等を活用しながら、生徒達から希望をとって進めております。希望はだいたいかなえられていると思います。</p>
施設課長	<p>繰越の中にプレハブ、仮設校舎が入ってるかという件については、たとえば、現在、那覇商業高校等も校舎改築して、運動場にプレハブを建てておりますが、それも入っております。プレハブには空調も入っております。また、寮についても、老朽化してるものについては改築を考えております。</p>
比嘉委員	<p>就職活動支援事業について。県内の高卒者求人が少ない中、職業学校を卒業した生徒や、高校卒業後に就職を希望する生徒に対するインターンシップが大事ではないか。確か、JTA、JTAPが本土へのインターンシップを始めていると思う。たとえば、希望者は修学旅行の一部を振り替える等。そ</p>

	うということも含めて、県外での就職希望者に対して、もう少し職場体験を取り入れてもいいのではないか。教員が就職先を開拓することも大事だが、民間企業の方が民間企業を知っているということもあるので、民間の力を借りて、高卒を雇用予定の企業をたくさん選定してもらい、そこに修学旅行的に、数日間出かけてインターンシップで学ぶ、その中でいろんな体験をすることで、本土で暮らす楽しさや興味を生徒に感じてもらうようなものを企画して取り入れてもいいのではないか。少し枠を広げて取り組んでほしい。
委員長	ほかにございませんか。 (しばし間があり) それでは、このとおり決定してよろしいでしょうか。
各委員	異議なし。
委員長	このとおり決定します。 次に、議案第3号の説明をお願いいたします。
県立課長	(議案第3号の説明) ・教育委員会の権限事務に係る教育長の臨時代理の承認について(議案「沖縄県学校職員定数条例の一部を改正する条例」に対する意見)
委員長	御質疑等ございませんか。
安次嶺委員	トータルとしては増えているが、小学校では子どもの数がかなり減っていると思う。今後もこの傾向はずっと続いていくのか。
義務課主任	児童生徒数については、緩やかな自然減となっています。ここ7～8年では、沖縄県は5%の自然の減で、児童生徒数は減っていますが、九州他県では10%等もあり、他県に比べると沖縄県は緩やかです。
安次嶺委員	全国的に出生率そのものはずっと減っている。沖縄県の場合は、人口の流入等があって緩やかなのかもしれない。しかし、とにかく減っているとすると、相対的に生徒対教員の割合は変わってくるが、これに対しては、職員の削減ではなくて、少ないクラスを担当をするという形になるのか。
教育長	今回、小学校は392人の生徒数の減ですが、教員は88人増えます。これは、今度、国が35人学級を始め、定数を、これまで40人学級で計算していたものが、35人学級で計算することになった分、職員が増えたものです。
安次嶺委員	国としては、最終的にはどこに目標おいているのか。今のクラスは大きすぎるのでどんどん減らしていかないといけないとなると、教員を毎年増やさないといけない。
教育長	民主党は、今回、35人学級を1、2年で実施すると言っていて、6年間で中学校2年まですべて35人学級を実施するという方向性を持っています。
鎌田委員	小学校が約400人減で、逆に中学校が約700人増えている背景は何か。
教育長	去年の小学校6年生が多くて、その6年生が中学校に進学したために、中

	学生が増え、小学生が減っています。
義務課主任	平成22年の学校基本調査では、昨年は中学校3年生が15,885人おります。この数字は、条例の関係上、県立中学校を除いています。これに対して、小学校6年生は16,835人で、単純にスライド進学を仮定した場合には950人の増になります。現在、2月議会に上程するために、1月現在で次年度の児童生徒数を見込んでおります。この段階では、どのくらいの子が私立や県外の学校に行くのか等の見込が難しい状況等がありますが、それらを見込んで706人という形になっております。
委員長	他にございませんか。 (しばし間があり) では、このとおり決定してよろしいでしょうか。
各委員	異議なし。
委員長	このとおり決定します。 これで、本日の日程はすべて終了しましたので、閉会します。